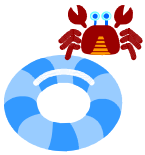


男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信

事務局：秋田県立養護学校天王みどり学園



平成25年度 第1回特別支援連携協議会



・平成25年6月6日(木)に開催した男鹿潟上南秋地区連携協議会の内容を報告します。当日は地域の関係機関の代表約50名が参加くださり、「地域の子どもは地域で育てる」をテーマに、地域の支援体制づくりについて情報交換をしました。今後、特別支援教育に係る推進事業が終了、縮小することを踏まえ、各市町村・学校(園)の自己解決力が求められていることも確認しました。

1 全体会 情報提供「自己解決力を実現する地域の支援体制の構築」 事務局から6つの提案

- (1) 既存の組織を利用した「市町村単位の連携協議会(ネットワーク)」の設置
- (2) 「就学支援シート」「個別の支援計画」の作成と活用
- (3) 「5歳児健診・相談会」の実施
- (4) 市町村教育委員会主催の相談会の開催
- (5) 通級指導教室、特別支援学級が地域の特別支援教育推進役
- (6) 発達障害の理解啓発のための研修会の開催



2 分科会

- (1) 生活部会 「関係機関が連携した支援について」
 - ・園では気になる子どもが年々増加しているが、診断名がないと加配ができない。
 - ・潟上市と男鹿市で幼児けんこう教室を実施しているが、保健師の協力体制がよい。
 - ・就学前の保護者からの相談が増えている。
 - ・現在、各市町村にある「障害者自立支援協議会」が機能すると関係機関が連携できる。開催時期、問題提起など事務局の役割が重要となる。
 - ・老人分野が障害者への対応に参加できると思う。垣根を取ってサービスできる仕組みを検討したい。
- (2) 教育部会 「スムーズな移行期支援について」
 - ・昨年度から「就学支援シート」の作成が課題となっている。
 - ・適正就学を実現するためには、就学時検診では遅いと感じている。
 - ・「個別の指導計画」を校内で共通理解する場が少なく、作成して終わっている。
 - ・「個別の指導計画」の作成時から保護者を参画させてほしい。
 - ・小・中学校で作成している「個別の指導計画」が高校に伝わってこない。
 - ・中学校では、指示の出し方、宿題の出し方など、先生方の対応にばらつきあがる。
- (3) 労働部会 「地域支援で支える就労支援」～発達障害者の就労支援を中心に～
 - ・発達障害を本人と保護者が受容できていないと、就労支援が難しい。(多数)
 - ・就労については、市町村単位よりも広域的な活動が必要である。
 - ・発達の遅れはないが、コミュニケーション面で課題があると就労が難しい。(高校)
 - ・この地区の就労に関する連携の核はどこか、はっきりさせた方がよい。
 - ・市町村の福祉関係者の参加が少ないので、広く呼びかけてほしい。
 - ・障害者の就労の幅が広がっていくように、市としてできることを検討したい。

3 参加者の声（アンケート結果 ～抜粋～）

- ・気になる子ども見付けるにも、生活を支援するにも、家庭、関係機関の連携や信頼関係が必要になる。早期発見を心がけていきたい。
- ・手帳やサービスの事務を行っているが、受給者本人がそれを受けてどのように生活をしているかというところまで意識がいつまでたっていない。
- ・6つの提案は具体的であり、実行に向けて連携をさらに進めていくことを望む。
- ・他市町村の例を参考にして、今年度中に「就学支援シート」を作成したい。
- ・小学校からの支援計画等が引継ぎされているので、中学校での指導に役立っている。
- ・体制づくりは教育委員会や各校との連携が必要である。自校の教育力の向上が課題だと感じた。自校の状況を振り返る機会になった。
- ・地区ごとの協議会の開催はよい取組であり、楽しみである。
- ・卒業するところに相談してよいか分からない意見を聞くので、今後、地域に総合的に相談できる窓口を設置して、そこから関係機関に案内できるようにしてほしい。
- ・就学時健診では遅いので、乳幼児検診を実施している課に、5歳児健診を働きかけていきたい。市町村ごとの協議会については、今後検討していきたい。
- ・教育と行政（労働）の連携は、まだまだ不足している。学校卒業後も5～10年は、支援員を付けられるような援助システム等の施策はできないものか。
- ・地域の自立支援協議会が活性化することを望みたい。
- ・特別支援教育コーディネーターの存在を保護者だけでなく、現場の先生も知らない。
- ・「高等学校特別支援隊」の情報を得られたので活用したい。
- ・事前に協議内容を教えてもらえれば、職員全員の意見をまとめることができる。
- ・関係市町村の参加が必ずなければ方向性を見出すのが難しい。
- ・各地区ごとの情報や情報や取組が分かるように整理しておくとうい。

4 他市町村の動向

(1) 地区別連携協議会が設置されている市町村

大仙仙北地区 能代山本地区 横手市 鹿角小坂地区 由利本荘市 にかほ市
湯沢雄勝地区 大館市 北秋田市 男鹿潟上南秋地区 ※今年度から能代市が単独で設置

(2) 5歳児検診または相談会を実施している市町村

横手市 東成瀬村 八峰町 小坂町 北秋田市 大館市
今年度か能代市（5月）と鹿角市（9月）が実施



(3) 就学支援シートを作成している市町村

男鹿市 潟上市 横手市 大仙市 大館市 北秋田市

5 次回の連携協議会について 平成26年1月31日（金）午後開催

- ・男鹿市、潟上市、南秋地区（井川町・五城目町・八郎潟町・大潟村）の3つに分かれて、支援を必要とする子どもたちが豊かな生活を送るために、関係機関が連携して途切れない支援を実現するための体制づくりについて情報交換をします。事務局の「6つの提案」を基に、既存の組織と連携の状況、5歳児検診の実施や就学支援シートの活用、就労支援などについて協議を深めます。市町村以外の関係機関の皆さんには、各分科会に入ってください、それぞれのお立場からアドバイスをお願いします。
- ・8月上旬から中旬にかけて、事務局（天王みどり学園）が各市町村の福祉・教育行政を訪問して、支援体制づくりの現状と今後の方向性について伺いたいと思っています。

- ・就学支援シートを作成したい、5歳児検診を働きかけたい、高等学校支援隊を活用したい、自立できる支援体制づくりをしたい、市として就労支援について検討したいなど、皆さんの「～したい」という思いと、「地域の子どもは地域で育てる！」体制づくりが見える形になるように、事務局として情報提供をしますので、いつでもご連絡をください。
- ・次回の連携協議会では、各市町村から「新たな活動に取り組んだ」、「連携したことで成果が見られた」という報告を期待しています。